

## 令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	36	学校名	静岡県立静岡東高等学校	記載者	大野 達雄
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	<b>授業改善と確かな学力の向上</b>	別紙（様式3 令和7年度 学校経営報告書（自己評価）参照	B	B	生成 AI を使いこなすには、自らの実感や着想、問いを言葉にする力が必須です。それには読んできた本の質や量、論理を積み上げていく思考態度、豊かな直接体験等が重要となります。その点を高等学校段階でどのように認識し対応していくかは今後の大きな課題であると考えられます。
イ	<b>志の育成と進路目標への挑戦</b>	同上	B	A	静大、県大等との連携授業への希望者が引き続き多く、また国公立を中心とした難関を含む大学への受験チャレンジ等、生徒の志は相変わらず高いと感じる。
ウ	自主自律の精神と豊かな人間性の育成	同上	A	A	部活動や課外活動で活躍し、結果を残す生徒も多く、バランスが取れていると感じました。勉強以外の事も打ち込める環境があり良いと感じました。 東陵祭に対して、楽しかったではなく、意欲的に取り組めた、活動したという自己評価が高いのが素晴らしいと思う。
エ	心身の健康と命を守る教育の推進	同上	A	A	命に関わるような大きな問題が発生していないことが何よりだと思う。生徒の状態を組織で把握している成果だと思う。
オ	積極的な広報活動	同上	A	A	土曜授業公開を実施しており、本年度も多くの生徒・保護者が来校している。学校ホームページだけでなく SNS でも部活動の様子等を公開するなど、様々な手段を用いて積極的な広報活動を展開していることがうかがえる。
カ	業務改善と働きやすい職場づくり	同上	A	A	デジタルデバイスを活用した業務の効率化が図られている。
キ	仮設校舎の運用と新校舎建築に関わる業務の遂行	同上	A	A	校舎の移転が進む中、仮設校舎においても生徒が快適に学習・生活できるよう、様々な工夫や取り組みを継続的に重ねていることがうかがえる。
ク	<b>時代の要請に応える教育の推進</b>	同上	A	A	できる限りの推進はされていると思う。難しいかもしれないが、いわゆる高校教育の枠を超えた事業を検討する時代かもしれないと感じる。